令和6年産

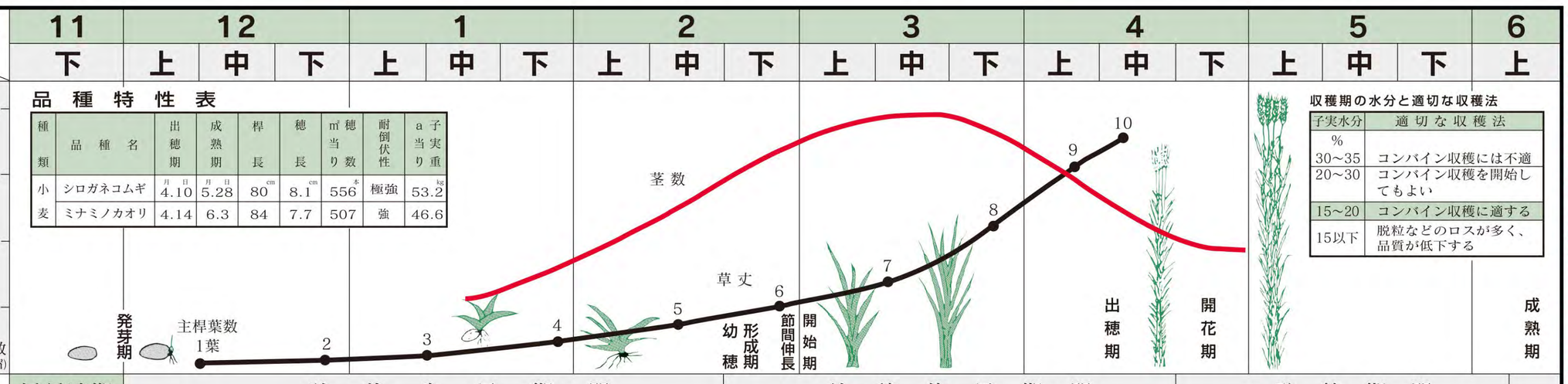
小麦栽培こよみ

令和5年9月作成
柳川農業協同組合
南筑後普及指導センター

全量種子更新で高品質な売れる小麦生産に努めましょう!!

地力維持のため稲ワラを全量すき込みましょう。

生育経過



品種特性表

種類	品種名	出穂期	成熟期	桿長	穂長	㎡穂数当り	耐倒伏性	a子実重当り
		月 日	月 日	cm	cm	本		kg
小麦	シロガネコムギ	4.10	5.28	80	8.1	556	極強	53.2
	ミナミノカオリ	4.14	6.3	84	7.7	507	強	46.6

収穫期の水分と適切な収穫法

子実水分	適切な収穫法
%	
30～35	コンバイン収穫には不適
20～30	コンバイン収穫を開始してもよい
15～20	コンバイン収穫に適する
15以下	脱粒などのロスが多く、品質が低下する

播種適期 | 栄養生長期間 | 幼穂伸長期間 | 登熟期間

主な作業

- 優良種子の準備
- 排水対策
- 土壌改良材の施用
- 基肥
- 種子消毒
- 播種
- 除草剤散布
- 麦踏み（本葉三枚頃から）
- 追肥
- 麦踏み
- 土入れ（排水）
- 麦踏み
- 除草剤散布
- 土入れ（排水）
- 麦踏み
- 麦踏み
- 土入れ（排水）
- 赤かび病防除2回目（ミナミノカオリ）
- 穂揃期追肥
- 赤かび病防除1回目
- 収穫

麦踏み
土入れ

※播種覆土後は土壌が湿潤な場合を除き、出芽・除草効果を高めるため鎮圧を実施する。

近年目立つ雑草類について

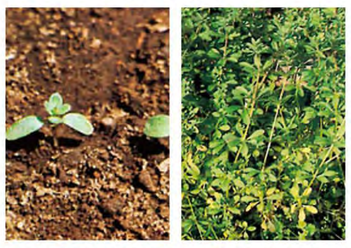
〈スズメノテッポウ〉

麦作における代表的なイネ科雑草で、播種直後の土壌処理剤と中耕土入れで防除できるが、多発すると極端に麦の生育を阻害する。

〈カズノコグサ〉

湿田での発生が多いイネ科雑草で、発生期間が長いことから播種直後の土壌処理剤だけでは防除し難い。

〈ヤエムグラ〉



多発すると麦を巻き倒し、収穫作業に支障を来たすこともある雑草で、発生初中期（1月～2月）に除草が必要。

〈カラスノエンドウ〉

4月に赤紫の花が咲くマメ科植物で、麦収穫時に子実が混ざると調製で除去できないので、麦販売上の問題となる。

〈イヌタデ〉

発生ほ場は多くはないが近年目立つようになった雑草で、発生初期（1月中旬～2月中旬）に除草が必要。

〈キンポウゲ類〉

発生ほ場は多くないが近年目立つようになった雑草で、発生初期（1月中旬～2月上旬）に除草が必要。

柳川の選ばれる小麦づくり運動

※実需者が求める品質の高い小麦づくりに努めよう!!

シロガネコムギ（日本麺用）
- タンパク9.7%以上～11.3%以下
- 灰分1.6%以下
- 容積重840g/ℓ以上
- フォーリングナンバー300以上

ミナミノカオリ（パン・中華麺用）
- タンパク11.5%以上～14.0%以下
- 灰分1.75%以下
- 容積重833g/ℓ以上
- フォーリングナンバー300以上

良質安定多収 8つの重点ポイント

1. 湿害（排水）対策（弾丸暗渠の実施）
2. 地力増強
3. 種子更新
4. 種子消毒の徹底
5. 適期播種
6. 雑草防除
7. 赤かび病防除
8. 異品種の混入防止

地力増強（土づくり）

1.有機物の施用

稲わら：全量12～15cmの深さですき込む。
堆　肥：牛フン1～2t/10aまたは、アヅミン40kg/10a施用。

2.土壌改良材の施用

収量・品質の安定のために、ケイ酸質資材やアルカリ資材を施用する。

ケイ酸補給：土力の素 45kg／10a施用。
とれ太郎 60kg／10a施用。
PHの矯正：炭酸苦土石灰140～200kg／10a施用。
ケイ酸補給・PHの矯正：ミネラルG 140～200kg／10a施用。

赤かび病防除の徹底

「赤かび病」は麦の収量、品質に大きく影響します。特に、食品の安全性が問われる中で、かび毒であるデオキシニバレノール（DON）が取り沙汰され、農産物規格規程上、赤カビ病被害粒混入限度0.0%と厳しい基準となっています。

赤かび病予防を行うことが売れる麦の最低条件となっています。

〈赤かび病〉

農薬を使用する場合はゴム手袋・マスク等の防護具を着用して下さい。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう。

排水対策

①地下排水：有材暗きょ＋弾丸暗きょ
②表面排水：ほ場周囲＋畦間（枕地に溝を切り排水口に通す）
※麦は湿害に弱いため、ほ場の排水性が収量や品質に大きく影響を及ぼします。
降雨後の水がほ場に停滞しないよう排水溝の整備を行いましょう。

播種時期及び播種量

☆品質向上と安定生産の為、毎年、全量種子更新を行い、充実のよい種子を用いる。（10a当り）

種類	播種適期	播種量	
小麦	11月20日～11月30日	シロガネコムギ	6～7kg
		ミナミノカオリ	

前年度ヤギシロトビムシの被害を受けたほ場では、播種適期の範囲内でなるべく早く播種する。
※晩播限界　12月15日
注意）晩播対策：播種量を20～40%増量する。
大豆後：播種量を20%減らす。

種子消毒

薬剤名	対象病害虫	処理方法
ベンレートTコート	斑葉病 裸黒穂病 なまぐさ黒穂病	種子10kgに薬剤50gを粉衣する。
アドマイヤー水和剤	ヤギシロトビムシ	種子10kgに薬剤15gを粉衣する。
クルーザーFS30	ヤギシロトビムシ（多発田）	種子10kgに薬剤60㎖を塗沫する。

※ベンレートTコートとアドマイヤー水和剤は混用できる。
※ヤギシロトビムシ多発田では、ベンレートTコートとクルーザーFS30を混用する。

施肥基準

（10a当り）

品種名		基肥 ちくごのめぐみ444	一発追肥（1月下旬） 麦追肥一発1号	硬質小麦専用追肥3004	穂揃期追肥（出穂後7～10日） 硫安
成分(N-P-K)		14-14-14	24-0-5	30-0-4	21-0-0
水稲後	シロガネコムギ	40kg	40kg	——	——
	ミナミノカオリ	40kg	——	40kg	10kg
大豆後	シロガネコムギ	30kg	30kg	——	——
	ミナミノカオリ	20kg	——	30kg	10kg

※穂揃期追肥を尿素の葉面散布で行う場合は、開花期に実施します。
（5kg/100ℓ/10a×1回で硫安10kg/10aに相当）
高温時に尿素葉面散布を行うと、葉焼け程度が激しくなる場合がある。
尿素の濃度が高いと葉焼けの程度が激しくなる場合がある。

赤かび病防除

品種	防除適期	薬剤		10a当り使用量
シロガネコムギ	※開花期（出穂後7～10日）	粉剤	トップジンM粉剤DL	4kg
		液剤	トップジンM水和剤	1,000倍 100L
ミナミノカオリ	1回目：開花期（出穂後7～10日） 2回目：1回目の5～7日後	無人航空機	トップジンMゾル	8倍 0.8L

※開花期に降雨が続く場合、シロガネコムギも赤かび病が多発するため、2回目防除（1回目防除の5～7日後）を行います。

麦踏み

12月下旬～2月下旬（本葉3枚頃～節間伸長開始）にかけて分げつ促進と徒長防止のために3～5回を目途に行う。
土が乾燥し、茎葉に霜や露がない条件で実施する。
茎立期以降は麦踏みはしない。

土入れ

1月中～下旬、2月上～中旬、3月上旬を目安として、できるだけ麦踏み前に実施する。雑草や無効分げつの抑制、倒伏防止、表面排水等に効果がある。

除草基準

	薬剤名	適用雑草名	使用時期	10a当り使用量（希釈水量）	使用上の注意
播種前	ラウンドアップマックスロード	一年生雑草	播種前又は播種後出芽前	200～500㎖（水100L）	・播種前の雑草が多い場合。 ・周囲の作物には飛散しない様に特に注意する。
土壌処理	リベレーターフロアブル		播種後～麦3葉期（雑草発生前～イネ科1葉期）	60～80㎖（水100L）	・砕土、整地は丁寧に行い覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・土壌がしめりすぎていると効果むらや薬害の原因となることがある。 ・まれに麦の葉身に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
	リベレーターG（粒剤）		播種後～麦2葉期（雑草発生前～イネ科1葉期）	4～5kg	
茎葉処理	ハーモニー細粒剤F	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	播種後～麦3葉期（雑草発生前～発生始期）	4～5kg	・ハーモニー細粒剤FとハーモニーDFはいずれか1回しか使用できない。 ・散布後、1週間以内の麦踏み・土入れはしない。
	ハーモニーDF		播種後～節間伸長前	5～10g（水100L）	
	エコパートフロアブル	一年生広葉雑草 ヤエムグラ	節間伸長開始期まで（広葉雑草2～4葉期）	50～100㎖（水100L）	・カラスノエンドウへの効果は低い。 ・小麦の葉身部に軽微な白斑、白点などを生じるが、一過性でその後の生育に影響しない。 ・茎立期以降は、白斑、白点が顕著に発生するので使用しない。
	バサグラン液剤	一年生広葉雑草 キンポウゲ類	小麦の生育期収穫45日前まで	100～200㎖（水70～100L）	・キンポウゲ類に効果が高い。 ・低温、曇天時の散布は効果が劣ることがある。

注）①ハーモニーDF散布に当って周辺作物に薬害を与えるため、散布時の飛散（専用ノズルの使用）や散布後の流出に十分注意する。
②ハーモニーDF散布に用いた器具類は消石灰500倍液を10分間循環させた後20分間放置し、排出後清水で洗浄する。
③ハーモニー細粒剤FとハーモニーDFはいずれか1回しか使用できない。

カラスノエンドウ対策：①発生の揃う2月に薬剤防除（ハーモニーDFが有効）を実施する。
②更に開花時期に残った分を根こそぎ取り除く。

カズノコグサ、タデ対策：①前年度発生ほ場では排水対策を徹底し、播種直後の除草剤〈リベレーターフロアブル、リベレーターG（粒剤）〉を散布する。
②1月下旬～2月上旬にカズノコグサやタデに効果が高いハーモニーDFを散布し、中耕・土入れを徹底する。

令和6年産小麦栽培管理記入欄

★「作付品種名」「作付面積」「主な作業月日」を記入して下さい。

品種名 作付面積		11月 上旬	11月 中旬	11月 下旬	12月 上旬	12月 中旬	12月 下旬	1月 上旬	1月 中旬	1月 下旬	2月 上旬	2月 中旬	2月 下旬	3月 上旬	3月 中旬	3月 下旬	4月 上旬	4月 中旬	4月 下旬	5月 上旬	5月 中旬	5月 下旬	6月 上旬	6月 中旬	6月 下旬
シロガネコムギ a	主な作業	弾丸暗渠 / ～ 日	種子消毒 / ～ 日	播種・基肥 / ～ 日			麦踏み / ～ 日	土入れ / ～ 日		麦踏み / ～ 日	土入れ / ～ 日	麦踏み / ～ 日		土入れ / ～ 日			赤かび防除（1回目） / ～ 日		赤かび防除（2回目） / ～ 日				収穫 / ～ 日	
		土壌改良資材 / ～ 日	/ ～ 日		雑草防除 / ～ 日			雑草防除 / ～ 日		追肥 / ～ 日	雑草防除 / ～ 日														
ミナミノカオリ a	主な作業	弾丸暗渠 / ～ 日	種子消毒 / ～ 日	播種・基肥 / ～ 日			麦踏み / ～ 日	土入れ / ～ 日		麦踏み / ～ 日	土入れ / ～ 日	麦踏み / ～ 日		土入れ / ～ 日			赤かび防除（1回目） / ～ 日		赤かび防除（2回目） / ～ 日						
		土壌改良資材 / ～ 日	/ ～ 日		雑草防除 / ～ 日			雑草防除 / ～ 日		追肥 / ～ 日	雑草防除 / ～ 日						穂肥 / ～ 日		/ ～ 日				収穫 / ～ 日	

実需者が求める品質の高い(Aランク)小麦づくりに努めよう!!